

ナス黒点根腐病に関する研究

I. ナス黒点根腐病の発生生態

矢野和孝・竹内繁治*・森田泰彰

Studies of Black-dot Root-rot Caused by

Colletotrichum coccodes on Eggplants

I. Relationship between Temperature and the Disease Development, and Pathogenicity against the Root Stock Varieties and Solanaceous Plants

Kazutaka YANO, Shigeharu TAKEUCHI* and Yasuaki MORITA

要 約

2006年に高知県高岡郡津野町においてナス黒点根腐病が発生したので、本病の発生生態に関する調査を実施し、以下の試験結果を得た。

1. ナス黒点根腐病菌の菌糸は10～35℃で発育し、適温は25～28℃であった。また、本病は20～30℃で発病し、20℃では発病程度が高かったが、33℃では発病しなかった。
2. 13種類のナス台木品種に対するナス黒点根腐病菌の病原性について検討したところ、‘トナシム’、‘トルバム・ビガー’および‘トレロ’は抵抗性であったが、‘台太郎’、‘台二郎’、‘イタリア赤茄子’、‘カレヘン’、‘耐病VF’、‘アシスト’、‘とげなしつのならず’、‘ミート’、‘茄の力’および‘ナクロス’は感受性であった。
3. ナス黒点根腐病菌はナスの他、ピーマン、シシトウおよびジャガイモに対して病原性が認められたが、トマトに対しては認められなかった。

キーワード：ナス、黒点根腐病、*Colletotrichum coccodes*、温度、台木品種、病原性